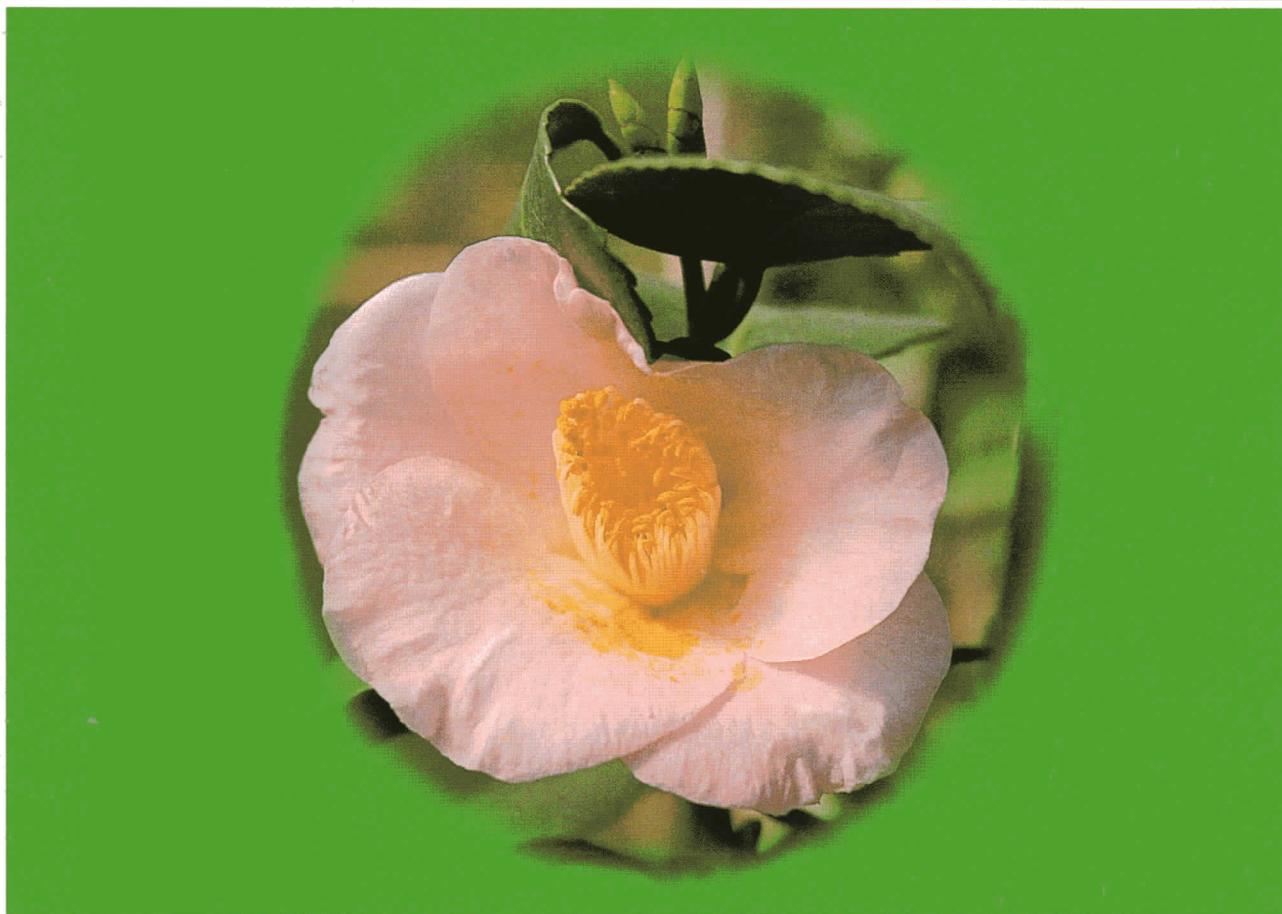


樹里安だより

1998年
7月
vol.4



初化粧

はつ

化粧

げ

関東

一重、平開咲きの中輪。花は弁端がごく淡いトキ色を帯びた底白で、雄蕊筒は整っている。秋咲き。弁数は6～7枚、弁面にしわがある倒卵形状の花弁は基部が太いため弁の重なる部分が多く、筒状から容易に平開するが、弁辺が波うつために半八重咲きに見えることがある。葉は橢円形～広橢円形の中～大形。葉質は厚く、葉縁はわずかに外曲し、葉面は平坦かやや波曲する。葉脈は明白で鋸歯は浅

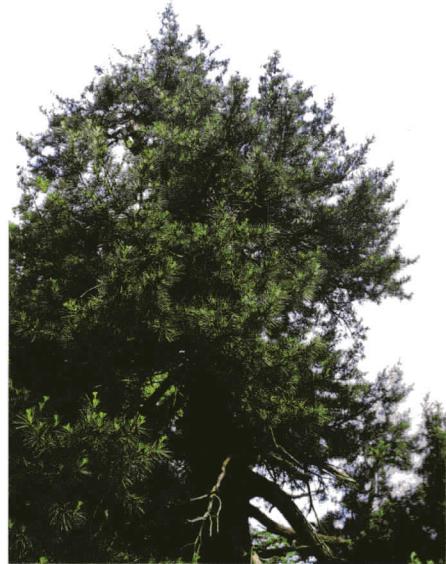
く鋭い。樹性は立性で樹勢は普通。

本品種は早咲きである。1965（昭和40）年ごろ埼玉県川口市安行の吉沢椿樹園が選出したもので、角葉白玉の実生といわれている。最初「ことぶき」と命名されたが、同名異種があるため「初化粧」と改名された。

（横山三郎解説「現代椿集2」より）

安行原 東光寺 コウヤマキ

木村 四郎



山に生える日本特産の常緑高木で、きれいな円錐形になる。葉は太く長いのが輪生し、ちょうどカラカサの骨を逆さにしたような付き方をする。木姿が良いので庭木に使われることが多い。スギ科だけに、樹皮は杉と同じように赤褐色である。高野山に多く生息していることから「高野槧」と名付けられる。

古くなると枝が垂れるというか杉のように枝先が下方にさがり、少しあばれた様相を呈してくる。

さて、お寺の石川さんに御説明して戴く。ここ東光寺は、室町期の創建にかかる真言宗智山派のお寺である。幼稚園がとなりにあって、子供達のにぎやかな声がときどき風にのって聞こえてきたりする。

山門をくぐると、すぐ左手にそのコウヤマキはあった。幹周り3.1m、高さ19mとあるからコウヤマキとしてはかなりな大きさである。樹齢はおよそ450年であるという。数年前の台風で芯が折れ、屋根瓦など多少痛めたようである。現在はワキの枝が芯になって盛んに伸びている。平成3年の大雪で、かなり枝が折れたという。所々に見える折れ口が痛々しいきずあとを見せてている。下枝はかなり払ってあるが、その枝の、幹から出るところなどかなり盛り上がっている。ゴツゴツと

したたくましさを見せている。北側の下の方に割れ目があり、指先を入れてみると中の空洞が感じられる。たたくとボコンという音がする。下の方は断面の4分の1ぐらいは枯れているのではないだろうか。いつ倒れないとも限らないが、生きている部分の方が多いのだから、ふんばって生き抜いて欲しいものだ。下から見上げると彫りの深い、魁偉な様相は人を魅了する。

下の明るいところに、高野山でわざわざ買ってきたという20年生の小コウヤマキが植えてある。母が子を連れ添うような格好だが、子供の方はまだ塀の外を覗き見するほどには育っていないけれども、10年、20年の後には、このなだらかな安行原の遠くからでも、親子連れのコウヤマキが見られるようになるに違いない。

まきの葉を 梅雨ぬらしたり東光寺





緑化の手びき シリーズ4



樹 高 じゅこう (略称 : H)

樹木の樹冠の頂端から根鉢の上端までの垂直高をいい、一部の突出した枝は含まない。なお、ヤシ類など特殊樹にあって「幹高」と特記する場合は幹部の垂直高をいいます。



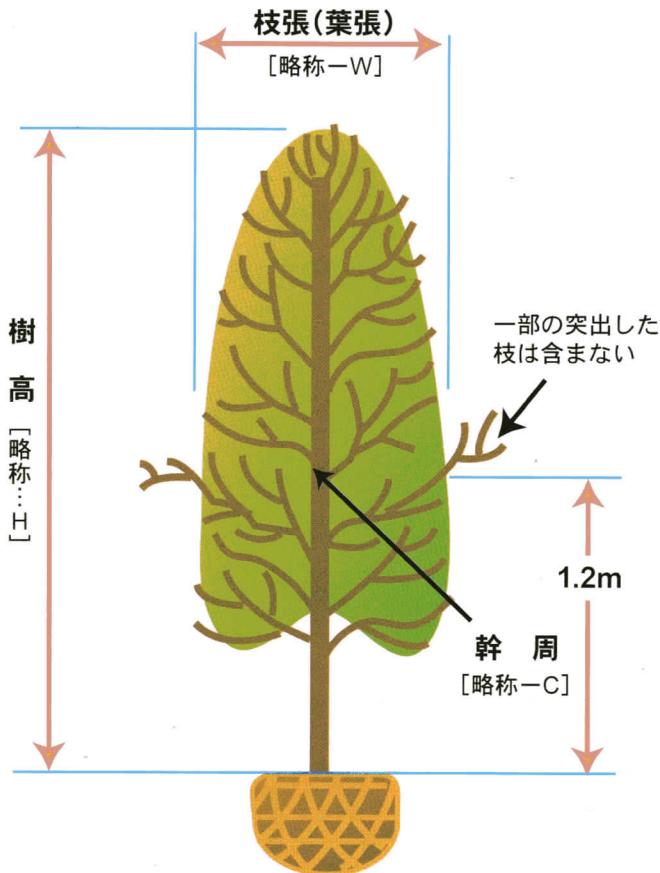
幹 周 みきしゅう (略称 : C)

樹木の幹の周長をいい、根鉢の上端より、1.2m上りの位置を測定します。この部分に枝が分岐しているときは、その上部を測定します。幹が2本以上ある樹木の場合においては、おのおのの周長の総和の70%をもって幹周とします。なお、「根元周」と特記する場合は幹の根元の周長をいいます。



枝 張 えだぱり (略称 : W)

樹木の四方面に伸長した枝（葉）の幅をいいます。測定方向より幅に長短がある場合は、最長最短の平均値とします。なお、一部の突出した枝は含まない。葉張とは低木の場合についていいます。



我が国で、緑化樹として利用されている樹木は、あよそ300種余りあるといわれています。その中から代表的なものを、それぞれの特徴により分けてみました。

樹形の美しい木

樹木は、樹種の違いによってそれぞれ特有の樹形を表します。このような樹木のもつ本来的な樹形の違いのほか、立地条件の相違や人為の影響によっても、樹形は異なってきます。望ましい樹形を保つためには、それにふさわしい樹種を選ぶことと、立地を考えて植栽すること、刈り込み等の手入れを怠らないことなどが必要といえます。

樹形は、種別すると自然樹形と人工樹形（仕立物）とに大別されます。自然形は、それぞれの樹種ごとに樹齢に応じて形成される樹形があり、さらには生育地の環境条件によって影響を受け、様々な樹形になります。

人工樹形（仕立物）は、樹種の持つ特性を活用することによって特定の使用目的のためにつくられた樹形であり、美的造形を主な対象としたものです。



円錐形

ヒノキ、サワラ、ヒマラヤスギ、
カヤ、カラマツ、コウヤマキ、
トウヒ、モミ、ラクウショウ、
イチョウ、アスナロ、ツガ、スギなど



円柱形

ポプラ、サイプレスなど



逆円錐形

ケヤキ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、
タギョウショウなど



卵 形

ユリノキ、スズカケノキ、
トウカエデ、イスノキ、
ゲッケイジュ、サザンカ、
モチノキ、クロガネモチ、
タイサンボク、ユズリハ、
シラカシ、マテバシイ、
クスノキ、サンゴジュ、
ヤマモモ、カツラ、
カナメモチ、カメリカフウ、
トチノキ、エンジュ、ナギ、
ホオノキ、ナンキンハゼ、
ニセアカシアなど



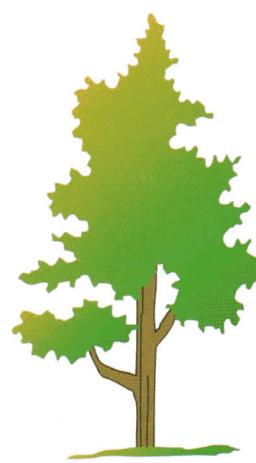
半円形

ウバメガシ、キャラボク、
クサツゲ、アベリア、
リュウキュウツツジ、アジサイ、
シモツケ、フヨウ、シジミバナ、
コデマリ、チャボヒバなど



円 形

ボダイジュ、ミズキなど



自然形

スダジイ、ツブラジイ、
サルスベリ、カエデ類など



葉（は）

維管束植物（シダ植物、種子植物）において、葉は根・茎とともに植物の栄養器官を構成し、ふつう茎のまわりに規則的につき、扁平な形をしています。葉を構成する細胞は葉緑体をもち、あらゆる生物の生命の源ともいえる光合成を営むとともに、呼吸・蒸散の働きも行っています。

このように、葉の本来の機能をもつ葉を普通葉と呼び、一般に葉といえばこの普通葉を指します。この3部分が揃っている葉を完全葉、いずれかが欠けている葉を不完全葉といいます。

葉は、基本的に葉身、葉柄、托葉の3部分に区別されます。



葉身（ようしん）

葉の広がった部分で、ふつう扁平で、葉の本体ともいえます。厚さ、光沢、質感、毛の有無や性質についても述べることができます。葉緑に凹凸がまったくない場合、全緑（ぜんえん）と呼びます。葉緑に細かい凹凸がある場合、その凹凸を鋸歯とか歯牙（しが）などと表します。



托葉（たくよう）

葉が茎についている部分にあるもので、葉状、突起状、刺状などその形態は様々です。



葉柄（ようへい）

葉身と茎の間の柄のような部分で、葉身と茎の間の物質輸送路であるとともに、葉身を適当な位置に支える役目をしています。葉柄がない場合は無柄、ある場合は有柄といい、他の柄状の器官の有無もこのように表現します。



葉序（ようじょ）

葉は茎の節についています。茎に葉配列する仕方を葉序といいます。



輪生（りんせい）

茎の各節に複数の葉がつく場合を輪生といいます。輪生の場合、各節につく葉の枚数が安定している場合、3輪生、4輪生と呼びます。



互生（ごせい）

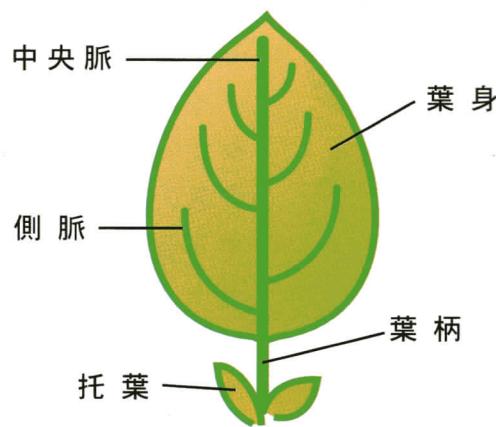
各節に1枚の葉がつく場合を互生といいます。



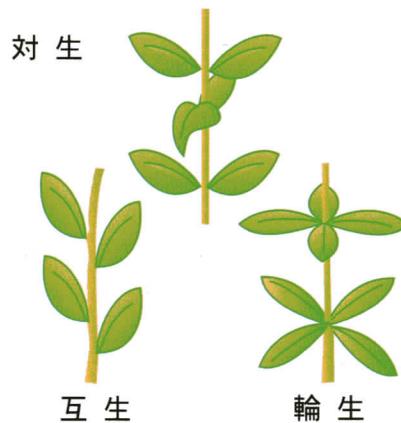
対生（たいせい）

各節に2枚つく場合は、2葉が茎をはさんで反対方向につくため、特に対生といいます。

葉の模式図



葉序





川口緑化センターの主なイベント等

♣ 輸入花の展示販売

(平成9年10月24日～26日)

※花き販売事業

オーストラリア産のプロテアを始めとしたふだん親しみの薄い輸入花の展示販売をし、緑化の知識の向上と普及を図る目的で開催しました。



♣ おもと名作展

(平成9年11月15日・16日)

※緑化啓発事業

葉の重量感、模様、格調高さなど古典植物おもとの展示販売と栽培管理講習会を開催し、その普及を図りました。



♣ チェンソー取扱教育研修会

(平成10年1月17日)

※緑化技術・研修事業

チェンソー取扱いの機会の多い造園関係者の労働安全教育と労働災害の防止を図るための教育講習会を開催しました。



♣ 接木技術講習会

(平成10年2月10日)

※緑化技術・研修事業

接木繁殖の技術を継承するために、実習を交えた講習会を開催しました。



♣ スプリング緑花感謝祭

(平成10年3月27日～29日)

※道の駅交流事業

開所2周年記念行事と道の駅交流事業として、来所者に1年の感謝を表す意味で開催しました。

緑化アラカルト

安行植木のおこり

伝統の技術

●「安行流」と呼ばれる仕立物の技術

庭園用の樹木を仕立てる技術の一つに、木の幹を曲げて仕立てる「曲幹作り」があります。その方法は、昔から生産地によって特徴があり、安行周辺において「曲げもの」として、チャボヒバ、クロマツ、キャラなどが樹木によっては30年以上もかけて、仕立てられています。

●「ふかし」…花の開花を早める促成栽培の技術

温室の利用など、人手を加えて、早く育てて出荷するための栽培法。

●「根回し・根巻き」などの技術

樹木を移植する際には、活着を容易にさせるための予備作業が必要となります。その第一の作業が「根回し」です。「根巻き」は根回しの次に行う根の保護作業です。

ご存知ですか 川口の名産

日本料理の添えもの

木の芽（サンショウ）

木の芽といえば春の木の芽の総称ですが、ここで言う木の芽はサンショウの若葉のことである。料理屋などで出される煮物、うま煮、卵豆腐や吸い物の添えものに一枚、また冷やっこに添えられたりするものです。しかし最近では、せんべい、かまぼこ、餅菓子にも使われるようになり、需要は四季を問わず伸びているようです。この木の芽、川口産のものが東京市場でその7割強を占めているといわれます。



発行日

平成10年7月1日

発行

財団法人 川口緑化センター

川口市安行領家844-2

TEL.048-296-4021

道の駅「川口・あんぎょう」

ホームページ <http://www.sainet.or.jp/~jurian/>